

様式第2号（第5条関係）

平成29年7月20日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

道田武司

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成29年7月6日～平成29年7月8日まで
- 2 旅行先 鳥取県岩見町
- 3 目的 岩見町教育委員会（おらみりほうしき教育のまち）研修
全国小・中・高校自治体フォーラム会
- 4 関係書類 別紙のとおり



764100

日 時	平成29年 7月7日 9:30 ~ 12:00
視 察 先	鳥取県岩見町、教育委員会
調査事項	教育行政全般について ・特色ある学校づくり ・少人数(小中学校)編成
対 応 者	岩見町長 榎本裁判 教育長 寺田健一 次長 松本邦裕 参事 澤 大進
1. 視察目的	岩見町教育大綱 (H27~H29年度末)
2. 視察内容	基本理念「まちづくりは人づくり 教育のまち」 基本目標「ふたつおこす 教育のまち 岩見」
① 背景	(1)教育内容の充実に向けて (2)特色ある教育の実践に向けて
② 特徴	(3)岩見町域との連携に向けて (4)学校施設の整頓管理に向けて
3. 主な質疑	町長〜(1)〜(4)の実施策及びその中の(2)
4. 考 察	特色ある学校づくりの推進と少人数学級編成について 祖学石巻修を実施しているものがある
(感想、政策提言、課題など)	①特色ある学校づくり推進事業補助金 各小中学校(小3から1年)に100万の補助金 を交付し 学校課外活動の解決、地域の歴史や 特色などを取り入れた教育活動を生み出すことに 教育を果敢とる 町独自、町長の提案の中で 13年分を実施し 成果を報告している。 (1)補助金の成果 *各校と地域の子と2つの学習と活動を実施している 地域の人材を学校に招き入れ、授業がより活発で 地域のふれあいを大切にする活動がすすんでいる *創意工夫に力 異分野連携 地域資源、職業体験 事業など 児童生徒の見識を高めた活動に 力を入れている。

※ 現行法において最も重要な命令の大印は、学校の
評価を行うものである。

例として、若しくは、評価報告は (1) 学校の評価の進捗
(2) いのちの健康 (3) 地域学習 (4) その他。

※ 現行の制度、マクドナルド・ニッパ、校訓部、その
創設以来の状況は、見られる。100万の補助金を
有知に、効果的な取り組みに、各校が取り組んで
いる様子がうかがえる。

非常に各学校に与える、先方の責任と積極性が
見られて、当局にも喜ぶべき参考事例に思われる。

① 小・中学校教育少人数学級編制案

小・中学校の学級数の学校数への順応や、中・小の不登校
対策として、H14年度に小・1・2年が30人学級をスタートし
H27年に小・中学校全学年が30人学級編成に
実施されることになった。

学校数への円滑な適応、基幹的学習指導の
習得、基礎学力の定着を目的に少人数学級編成
を実施した。

N-1年の授業不成立対策として、小・中・中学校への
学級不適応対策として、児童・生徒一人ひとりに
応じて柔軟な対応を講ずる。

この取組により、早期発見、早期対応、小・中・高
の連携強化の効果が、出席率、定数の
減少傾向が見られる。

柔軟な学級編成対応、1人1人に合わせた
先方と学校長、生徒、保護者に協働
し、教員の加配等、人づくりは教育の
根本理念の実現に、この取組により、担当
の一人ひとりの、教育者の熱意が、感じられ
当該の教育行政にも反映していると見られる。

日 時	平成29年7月7日～8日
視 察 先	岩見町
調査事項	第22回全国山村づくり推進自治体フォーラム
対 応 者	
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	第22回全国山村づくり推進自治体フォーラムに 7月7日～8日2泊2日 町長岩見町と 全国70 の自治体から首長と議員ら約170名が 参加。人口減少の中で持続可能な地域づくり に向けた自治体首長らの講演を通じて今後の 自治体のあり方を研究した。 平成27年の国勢調査の結果 総人口の減少と初めて 記録し 多くの地域で人口の減少が続いている 山村部基礎の喪失の危機に直面している 基調講演「人口減少と田園回帰1%戦略」 藤田 浩(前)持続可能な地域社会 総合研究所長 町長岩見町内自治体と例に「過疎地域でも平均 人口の毎年1%未満で増加人口は安定する。 地元で根拠地を築く土台とスリット田村や 若者に送る 社会増を実現している」と解決した 上、人口減少と農村の持続は「自分自身と暮らす 地域社会への思いと志を持つ人の活動 が生み出す」と記録の事例を挙げて強調した。

① 同時多発的に地域社会の限界状況
～ 軍中退却と戦後復興の。

② 田園回帰 1%の現実性とは域内作環境
にどう対応の取り直し

③ 新たな結びつきを創出 ～ 「新しい現実」

④ NICEな環境 自体に求められ「Xな環境」

⑤ 記憶の再生

集約と分散の両方。

・ 8月地域再生エッセンスに注目する

小規模自治体には「親の国」の国境と「真の自治」の強み
があり、住民が住み続けたい若者の移住を促すこと

思、そのための持続可能な地域づくりを促すこと

黒澤明と山崎町長が、各自治体、地域の
魅力を創出を推進している。

地域再生を促すこと。どうすれば、最近の状況

(1) トラスティエス・スウェーデン 東武東上線 (毎週金曜)

・ 若者の移住を促すこと

(2) 住みやすい田舎づくり 総合戦略受賞

・ 住みやすい田舎づくり 総合戦略受賞

(3) 「FIRE」・「LIFE」・「LIFE」

美しい風景 美しい生活 美しい人々

「FIRE」・「LIFE」・「LIFE」

(4) 地域再生計画 田舎づくり 総合戦略受賞

(5) 子育て支援

(6) 高齢者の生活 総合戦略受賞

「FIRE」・「LIFE」・「LIFE」

「FIRE」・「LIFE」・「LIFE」

実現するまで 若者町!!

地域再生計画 田舎づくり 総合戦略受賞

・ 人口減少対策の更なる推進

以上 若者町の特性を挙げる。